

総 括

夏期日本語教育ディレクター
広瀬 正宜

今年度の夏期日本語教育は 23 カ国から 116 名の受講生を迎えた。7 月 5 日（木）の登録・入寮に始まり、7 月 6 日（金）プレイスメントテスト、7 月 9 日（月）授業開始、8 月 17 日（金）に終了した。今年は、学内の寮の使用は昨年に続きグローバルハウスのみとしたために、昨年と同様、例年より受講生の数を若干制限した。最近の傾向として、ICU の提携校またはそれに準ずる機関を通しての学生数が多くなっており、学寮にはこれらのカテゴリーの学生を優先的に入れる必要があるため、一般の応募者の受け入れ人数を減らさなければならない状況にある。一般応募者数は大幅に受け入れ人数を超えているので、彼らの多くを断らなければならなかったのはなはだ残念である。

1. クラス編成

本年度は、プレイスメントテストの結果 C8（帰国生レベル）の受講生がいなかったためこのクラスは開講しなかったが、C6（中級上のレベル）と C7（上級レベル）の中間に当る受講生が数名いたため C7A（上級導入コース）を開講した。ほかに、C2 レベルを 2 セクションにし、合計 9 クラス開講し、講師 21 名が担当した。（講師は当初 22 名のはずであったが、開講前に 1 名が健康上の理由で辞退したので、21 名となった。）

2. カリキュラム

JLP のカリキュラムに合わせ、70 分授業を 3 コマずつ、月曜日から金曜日まで行った。（海の日も通常授業を行った。）ちょうど JLP の 1 学期分に相当する時間数である。

文化プログラムもサマーコースの一環であるので、こちらで行われる講義に少なくとも 3 回は参加するようにし、日本語学習と連携させるようにした。

3. 宿舍

今年も夏の暑さが懸念されるとの学生サービス部の提案に添い、昨年に引続き学内の既存寮の使用をやめ、グローバルハウスのみを使用した。そのため、学寮収容人数は 56 名に限られてしまった。その他の宿舍として、ホームステイ（25 家庭）および学外の民間の学生会館（19 名）を利用した。他は各自でアレンジした。ホームステイ受け入れ先のご家庭には事前にオリエンテーションを行い、学生に対しては全体オリエンテーションを行い、その後個別に面談を行った。

4. 減額プログラム

今回も一般応募の受け入れ枠が少なく、多くの応募者を断っているため、減額プログラムは利用しなかった。

5. その他

7月16日（月）「海の日」は休日であるが、集中授業なので通常のスケジュールで授業を行った。

大学の一斉休暇中はクリニックも閉鎖され、毎年この時期に救急車を呼んだり、病院に受講生を連れていったりすることが多いので、サマーコース開始から一斉休暇明けまでの4週間、本館2階講師室を保健室とし、月曜日～金曜日の午前9時～午後5時に日英両語のできる派遣の看護師を1名配属した。サマーコース授業開始2週目に、ある米国人学生が体調を崩し武蔵野日赤に入院し、結局2週間後父親とともに帰国した。大事に至らず無事に学生を帰国させることができたのは、その学生にもともと心臓疾患があったことや、来日前の歯の治療で炎症を起こしていることを突き止めて適切な処置と医師との連絡をして下さった、この看護師のおかげであった。